新型コロナウイルス感染症に関する重要なお知らせ

当院では新型コロナウイルス感染症の診療、診断を行う定められた体制にありません。

新型コロナウイルス感染が疑われる場合は、当院受診前に「帰国者・接触者相談センター」へご連絡ください。

厚生労働省より示されている相談の目安は下記のとおりです。

相談・受診の目安

- **相談の前に**
 - 発熱や風邪の症状→
学校、会社を休んで外出を控える
 - 毎日、体温を記録
- **相談センターに相談**
 - 「風邪の症状や37.5度以上の発熱が4日以上」または「強いだるさや息苦しさ」がある人

重症化しやすい人(症状が2日程度で)

- 高齢者
- 糖尿病、心不全、呼吸器疾患の持病のある人。透析患者
- 免疫抑制剤や抗がん剤の使用

妊 婦

- 念のため早めに

小 児

- 重症化しやすいとの報告なし

- **相談センターから薦められた医療機関を受診**

ご相談の結果、新型コロナウイルス感染の疑いのある場合には専門の「帰国者・接触者外来」が紹介されますので、受診を勧められた医療機関を受診してください。

【 ☎電話連絡・相談先のご案内 】

- ① **新型コロナウイルス感染症帰国者・接触者相談センター** (疑い例発生時や疑い患者からの連絡先)

TEL 045-664-7761

FAX 045-664-7296 聴覚に障害のある方をはじめ、電話でのご相談が難しい方向け

- ② **横浜市新型コロナウイルス感染症コールセンター** (新型コロナウイルスに関する一般相談)

TEL 045-550-5530

※①②ともに受付時間は午前9時から午後9時まで(土日、祝日含む)

新型コロナウイルス感染症の予防

風邪や季節性インフルエンザ対策と同様に、一人一人の咳エチケット（咳・くしゃみをする際に、マスクやティッシュ・ハンカチ、袖を使って、口や鼻をおさえること）、手洗いや擦式アルコール手指消毒薬の利用などの手指衛生がとて重要です。人混みのところではできれば避けていただくなど、感染予防に十分注意してください。

（厚労省資料）・[新型コロナウイルスを防ぐには（2020年2月25日改訂版）](#)

新型コロナウイルスを防ぐには

新型コロナウイルス感染症とは

発熱やのどの痛み、咳が長引くこと（1週間前後）が多く、強いたるさ

（倦怠感）を訴える方が多いことが特徴です。

感染しても軽症であったり、治る例も多いですが、季節性インフルエンザと比べ、重症化するリスクが高いと考えられます。重症化すると肺炎となり、死亡例も確認されているので注意しましょう。

特にご高齢の方や基礎疾患のある方は重症化しやすい可能性が考えられます。

新型コロナウイルスは**飛沫感染と接触感染により感染**します。空気感染は起きていないと考えられていますが、閉鎖した空間・近距離での多人数の会話等には注意が必要です。

飛沫
感染

感染者の飛沫（くしゃみ、咳、つばなど）と一緒にウイルスが放出され、他の方がそのウイルスを口や鼻などから吸い込んで感染します。

接触
感染

感染者がくしゃみや咳を手で押さえた後、その手で周りの物に触れるとウイルスがつきます。他の方がそれを触るとウイルスが手に付着し、その手で口や鼻を触ると粘膜から感染します。

日常生活で気を付けること

まずは**手洗い**が大切です。外出先からの帰宅時や調理の前後、食事前などにこまめに石けんやアルコール消毒液などで手を洗いましょう。

咳などの症状がある方は、咳やくしゃみを手で押さえると、その手で触ったものにウイルスが付着し、ドアノブなどを介して他の方に病気をうつす可能性がありますので、**咳エチケット**を行ってください。

持病がある方、ご高齢の方は、できるだけ人込みの多い場所を避けるなど、より一層注意してください。

発熱等の風邪の症状が見られるときは、学校や会社を休んでください。

発熱等の風邪症状が見られたら、毎日、体温を測定して記録してください。